

## 大原社会問題研究所五十年史

## Ⅴ 戦後

## 社会民主主義の研究

一九六〇(昭和三五)年度にはいって、研究所の業務は従来と変りなくつづけられたが、研究調査の部面で新しい仕事加わった。それは、文部省科学研究費(七七万円)の交付をうけて始めた総合研究「わが国労農運動における社会民主主義の研究」である。これは、戦後わが国労農運動において重要な意義と役割を果たしてきた社会民主主義の客観的評価とその運動の展望をあたえるために、第二次大戦前、とくに日中戦争開始までの時期における社会民主主義を研究するものである。そしてこの研究を四部門、すなわち無産政党、中間派労働組合、右派労働組合、農民組合の部門にわけ、それぞれの部門別に分科会をおくことにした。研究上の資料は大原研究所と法大図書館協調会文庫に所蔵されている原資料を整理、編成して分析し、また当時の運動実践家から直接聴取り調査をも併用する方法をとることとした。

研究担当者は、研究員のほか、法大社会学部村山重忠教授、同増島助教授、二村一夫東邦大学助教授らであった。

つぎに日本労働協会委託(調査費一五万円)による「第一次大戦後におけるわが国社会運動の研究」は、主として日本労働組合評議会関係の原資料類の整理、資料解説をおこなうもので、その成果は「労働運動史資料」第七集『日本労働組合評議会資料』(その六)として刊行された。また評議会の歴史的研究と関連して、「労働組合レフト組織」について裁判記録を資料として研究をおこない、報告書を作成した。

経済企画庁委託(調査費一五万五、〇〇〇円)による「中年層の労働移動の実態」調査は、都内、京浜地帯および中年層離職者が大量に発生した追浜地区(駐留軍関係企業)を対象にした。調査にあたって、各地職業安定所の求職者カードにより中年層の求職者を選定し、その労働移動の実態を究明し、他方、他の諸企業が中年層をどのように受けいれているか、採用をさまたげている要因は何か、採用者の職種や労働条件はどうか等、種々の側面から実態把握に努力した。

つぎに、日本評論社の発行している雑誌『月刊労働問題』編集部より、毎月の労働問題関係文献目録を同誌上に掲載したいとの申出があり、検討の結果、従来当所発行の『資料室報』にのせて来た内容をさらに充実させて目録を作成し、『月刊労働問題』にのせることに同意した。こうして、同誌八月号より掲載が始まり、今日にいたっている。

人事については、十一月一六日、中野勝義理事が全日空機で北海道上空を飛行中、事故に遭い死亡された。また十一月、半田秀一監事が死亡したので後任として法大理事松野晃典氏に評議員および監事を委嘱した。

出版物は年鑑第三三集、『中小企業労働者論』(東洋経済新報社刊)、『昭和恐慌下の農民組合』(2)および『昭和初期における社会民主主義批判』等である。

一九六一～六五年 昭和三六～四〇年 一九六一年度も、経済学辞典の編集、年鑑の編集発

行、各種調査研究、図書資料の集収と整理は順調にすすんだ。なお役員人事では、欠員中の理事および評議員に渡辺佐平経済学部教授・法大常務理事を選任した。

一九六二(昭和三七)年一月一四日、柿原政一郎氏一研究所創立にあたり大原孫三郎氏をたすけて立案と実務に参画し、長く所の運営に尽力された柿原氏が死去された。また一二月二日には一九二一年から三六年まで研究員であった細川嘉六氏が死去された。ともに久留間所長ほか関係者は懇ろに弔意を表明した。

昨年度より当研究所永田利雄職員と金研岡田和喜研究員を担当者として準備して来た『本邦会社史目録』が、この年刊行を見た。これは金融経済研究所(東畑精一所長)と大原研究所の共同編集になるもので、各産業部門の会社・銀行・公団等の社史類文献を包括的に集録したものである。このほか研究所の刊行物としては次のものがある。

『日本労働年鑑』第三五集、『日本労働組合評議会資料』(その七)、『資料室報』その他。

調査研究の分野では、文部省科学研究費の交付を受けて「労農運動における社会民主主義の研究」(継続)を実施し、所蔵資料の整理編成、関係図書資料の集収ののち、報告書を作成した。

なおこの年四月初め、大島研究員は一カ年の予定で法政大学在外研究員としてヨーロッパ留学の途についた。また田沼研究員が明年度より法大社会学部助教授に転出することになり、当分の間、兼任研究員として所の業務を担当することになった。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

---

[前のページ](#)← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 →[次のページ](#)

---

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

---

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)

---